

## 第4章 都留の自然とそれを活かした観光

社会調査・地域調査 A 「自然と観光」班

メンバー： 江口拓郎 相沢翔平 阿部生貴 石若文乃 江尻明德 小野陽一

### 4.1 はじめに

#### 問題関心

初めて都留を訪れたとき、山がとても近くにあるのに驚き、暮らしてみてその水道料金の安さにまた驚き、都留の自然が豊富であることを、また、その自然が人びとにとって身近であることを、身をもって感じている。都留の人びとは、その豊かな自然とうまくつきあいながら生活しているように思える。豊富な湧き水を利用し「水かけ菜」「わさび」の栽培はその代表的な例であろう。そのような豊かな自然のなかにあって、環境資源は観光にどのように活かされているのだろうか。そんな関心から、都留の自然と観光の関係を調べてみようと思った。そこで、まず、市内の観光拠点のひとつである「宝の山ふれあいの里」について着目することにする。

次に取り上げるのは生物である。都留にはこれだけの豊かな自然があるのだから、たくさんの動植物や虫が生息しているはずである。そういったなかには、もちろん、この地域にしか生息していない珍しいものもあるかと思われるが、今回の調査では、私たち筆者が、都留で生活しているなかで日常的な関連の深い生物をみていきたいと思った。しばしば出没情報が流される熊と、刺されると腫れてかゆくなる「谷村虫」ことブヨ。この2つについていろいろ調べていこうと思う。そのうち熊については、地域の防災無線の運営状況と関連させながら調査してみたい。

#### 調査内容

- ・ 河川と山々            各地見学
- ・ 自然（植物など）「宝の山ふれあいの里」訪問による施設見学、およびインタビュー調査（「宝の山ふれあいの里」の成り立ちや運営方針、運営の現状について）
- ・ 防災都留            市役所訪問によるインタビュー調査（運営方法、放送内容など）
- ・ 熊                    市役所訪問によるインタビュー調査（出没範囲、出没回数など）
- ・ ブヨ（谷村虫）      図鑑による研究

## 4.2 「宝の山ふれあいの里」について

「宝の山ふれあいの里」とは、宝鉱山跡地の山の自然をそのまま利用して、その豊かな自然を全身で体感でき、人と自然のつながりなどを学ぶことができる体験学習型レクリエーション施設である。われわれ調査メンバーは現地を訪問して施設を見学するとともに、同施設の成り立ちや運営の現状についてお話を伺うためにインタビュー調査を行った。

### 4.2.1 調査の実施方法

対象者： 都留市観光振興公社 宝の山ふれあいの里事業部長 長田さん  
実施日時： 2004年10月14日（木曜日） 11:00～12:00  
場所： 「宝の山ふれあいの里」管理棟 談話室  
質問者： A「自然と観光」班 4名（江口・相沢・江尻・小野）

### 4.2.2 インタビュー記録

#### 「宝の山ふれあいの里」の成立過程

「宝の山ふれあいの里」の成立過程は大きく分けて3段階に分けることができる。もともとこの地域は三菱グループ企業の所有していた土地であり、「宝鉱山」として銅などの採掘が行われていた。1970年（昭和45年）に閉山となったが、その後も三菱が所有権をもったまま放置されていた。そんななか、1981年（昭和56年）に「グリーンロッジ」という名称の、青少年育成を目的とした施設が作られた。これが「ふれあいの里」成立の第一段階である。その後、1992年（平成4年）に宝鉱山が都留市に払い下げられると、翌年に第二段階として、生き物とのふれあいを目的とする「生き物ふれあいの里」がオープンし、「ネイチャーセンター」を中心として活動し始めた。それと平行して、第三段階では、緑地広場、コテージ、管理等などがオープンし、現在の「宝の山ふれあいの里」のかたちとなった。そして現在は3つの事業（一部を除く）を都留市から委託されて、民間の企業が管理・運営にあっている。

#### 「宝の山ふれあいの里」の運営状況

「宝の山ふれあいの里」代表者へのインタビュー記録をもとに、以下、同施設の運営状況についてまとめてみよう。「ふれあいの里」の管理・運営は従来、都留市が行っていたが、指定管理者制度の導入に伴い、2004年（平成16年）7月から、先にも述べたとおり、民間の企業に移管されている。そのため、事業としての利益の追求もその目的のひとつとなっており、年間1,000万円を超える維持費に見合う収益をあげることが現在の経営目標となっているらしい。しかし、単純に利用料金を増やしては、逆に利用客の減少につながってしまう。そこで、「ふれあいの里」では利用客に対するサービスの充実（小中学生の体験学習活動の内容充実）を図り、魅力をアピールして利用客の増加を狙っている。また利用客は6：4で県外の人が多い。県内の人とは日帰りが多いが、県外の人とは宿泊していくことが多いため大事な収入源となっている。子どもの利用に関しては、現状では圧倒的に県内からの日帰り客が多くなっているため、学校単位での子どもの宿泊を増やそうと、県外、とくに東京都内の学校への営業の強化を図っている。その成果として、今年（2004年）、渋谷区立の小学校3校が、2泊3日で利用に訪れたそうである。また、利用客が多いのはやはり夏場であり、10月になるとほとんど宿泊の利用客がいない状況である。そのため、秋以降も客を呼ぶために、標高の低い市街地よりも紅葉が早

いことなど、自然の豊かさと、人と人とのふれあいの大切さをアピールして、利用客を増やしたいとのことである。また、現在、12～3月は閉鎖されているが、今後は、冬場にも利用客を集めたいという方針があるそうだ。

### 「宝の山ふれあいの里」の青少年育成事業について

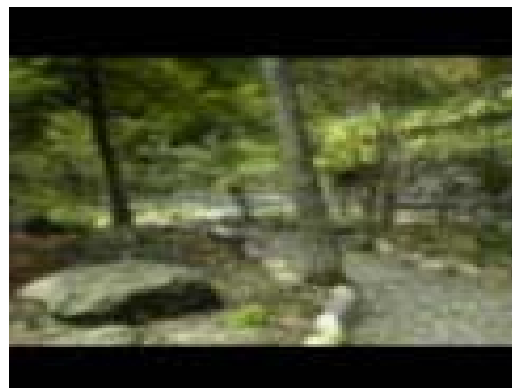
「ふれあいの里」は観光施設という側面と学習施設としての性格をもっている。むしろ今は、学習施設としての機能を強く押し出した営業をしているようだ。学習施設として、「ふれあいの里」では、ただ施設を貸し与えるだけでなく、「自然を利用して生きるということは何か」ということを子どもに伝えるための活動メニューを数多く提供している。創造力や実行力を身につけるため、たとえばムササビの観察や、魚の手つかみなど、都会では体験できないような活動や、材料と道具だけを渡してその日の暮らしに必要なものを作らせるといったものだ。

### 「宝の山」に生息する動物

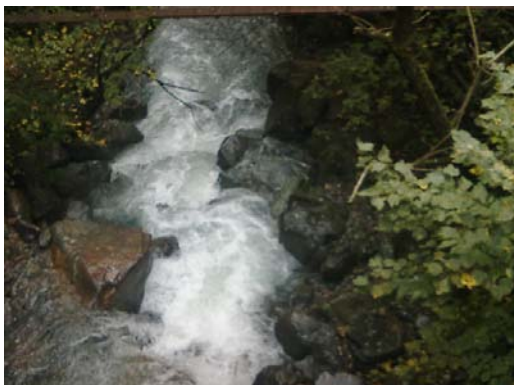
宝の山には熊（おもにツキノワグマ）が生息している。そのため、「ふれあいの里」では熊に対する安全対策として、森や山に入るときは10人くらいのグループを作る、鐘・鈴を鳴らしながら森に入るなどの対策をとっている。またここにはサルが多く、マムシも多く生息しており、森に入るときは肌を露出しないように指導しているそうだ。これら、宝の山に生息している動物については、すべて「ネイチャーセンター」によって生態の把握が進められている。



管理棟。事務所のようなものだ



こんなきれいな小道も



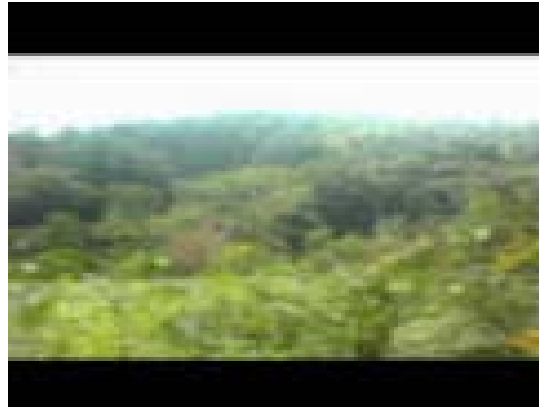
川のサテライト。綺麗だが鉱山の鉄分が混ざっているため、川遊びは別の川で行われる。



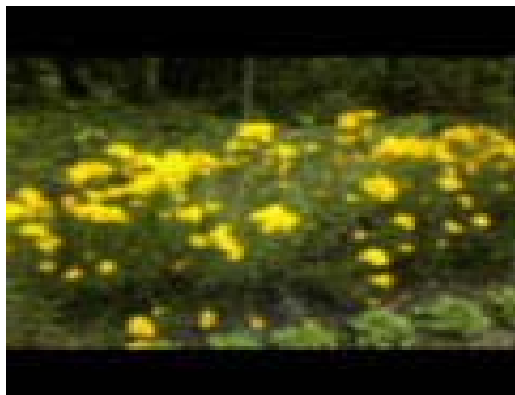
熊避け用のベル



緑地広場にはさまざまな遊具もある



山の中のため自然が非常に豊富



きれいな花も咲いている



インタビューに答えてくださった代表者の方  
どうもありがとうございました

## 4.3 防災無線「防災都留」と熊出没情報について

防災無線とは、自治体が、その地域の住民の防災に関する重要情報や行政に関する重要な連絡事項を、地域内各所に設置されたスピーカーを結んだ無線放送システムを通じて提供するものである。該当する情報の範囲は火災、地震、害獣の出没、行方不明者の捜索などにもおよぶ。

私たち調査班は、都留市役所総務課の藤江さんを訪ね、都留市の防災無線「防災都留」の成り立ちや仕組みについてインタビューした。また、「防災都留」でしばしば放送される熊の出没をめぐる市の取り組みについて、都留市役所産業観光課の亀田さん、加藤さんにインタビューを行った。

### 4.3.1 調査の実施方法

対象者： 都留市役所総務課 藤江さん  
都留市役所産業観光課 亀田さん、加藤さん  
実施日時： 2004年10月5日（火曜日） 15:00～16:00  
場所： 都留市役所ロビー 応接室  
質問者： A「自然と観光」班 3名（江口・相沢・阿部）

#### 4.3.2 インタビュー記録

##### 「防災都留」の設置経緯と役割

「防災都留」は昭和 61 年（1986 年）に国の地震対策の目的で設置された。そのきっかけは「大規模地震対策特別措置法」において、都留市がその強化地域に指定されたことにある。この強化地域は年々拡大している。山梨県はすべての市町村がその強化地域に指定されており、防災無線が設置されている。県内の各市町村は防災無線のほかに「防災計画」を作っており、そのなかに防災無線についても記されている。「防災都留」は水害、雪害、地震、火災などの災害の被害の予防・抑制のほかに、行政からの報告や情報提供、「市民の生命・財産を守る」などの役割も担っている。防災無線を通じた放送は、市民全体に聞こえなければ、その役割を十分に果たせないものだが、交通やその地域の地理状況によっては、必ずしも住民全員に聞こえるとは限らないのが現状である。「防災都留」では、広範囲に聞こえるよう大型スピーカーを使用し、地域住民の防災に日々努めている。スピーカーの設置は、地域住民の意向を踏まえ、また、市内全域に音声が届くよう計測したうえで設置場所が決められているが、「うるさい」「聞きにくい」などの苦情も一部に寄せられている。

##### 「防災都留」の運営システム

防災無線の放送作業を行っている場所は時間によって異なる。平日の 8 時から 17 時半までは市役所、17 時半から翌日 8 時までは消防署がこの役割をうけおっている。通常の放送に関しては原稿を作成し、それを読み上げてテープに録音し、放送時間と対象地域を事前にセットして流している。ナマで話すと係の人間が緊張して間違えてしまうことがあるので、いったんテープに録音したうえで放送している。緊急の放送は、その案件の担当者が総務課長に決裁をもらうことにより、肉声で直接流すことになっている。



取材に快く応じてくださった都留市役所総務課の藤江さん（左）、産業観光課の亀田さん・加藤さん（右）

##### 熊の出没情報について

熊の出没に関する放送の多い地域として、宝地区が挙げられる。熊は有害鳥獣として扱われているため、熊に関する問題は産業観光課で扱っている。熊による人への被害は今まではないらしい。都留に生息する熊はツキノワグマで体長は 100～150 cm くらいと意外と小さい。人家の近くによく出るような熊（個体）については、市が依頼した団体が捕獲に当たる対策がとられ、今年（2004 年）に入って 2 頭捕獲されている。出没の危険性に関しては、登山者に注意を呼びかけ、パンフレットや回覧板を地元の人びとに配って、注意を促している。冬から春先にかけては人が山にはいないためか、熊

が冬眠しているからか、熊は目撃されていない。熊に対してはとにかく刺激しないことが大事である。

熊の出没に関する放送を流した後に、「同一の熊か?」「自分は関係ないからいちいち流すな!」などの電話が寄せられることもある。しかし、熊に関してはその地域に関係する人たちにとってはとても重要な問題であり、やはり流すべきであろう。

#### 放送内容の選択基準

行政に関する放送も流されるため、時々「ペットを探すために流してほしい」「バザーの宣伝を流してほしい」などの内容で利用したいという問い合わせがくるが、このようなものを流してしまうと同様の依頼が多く寄せられ、キリがなくなってしまうので、そのようなものは流していない。今年に入って話題になっている「オレオレ詐欺」に関しては流すべきか迷うところだが、先に述べた「市民の生命・財産を守る」という観点において当てはまるものなので、6月ごろに放送した。行方がわからなくなったお年寄りに関する放送もやはりこの観点から流した。

#### 4.4 谷村虫について

「谷村虫」(ブヨ)に刺されて腫れる症状の正式な名前としては、ブヨによる「虫刺症」(ちゅうししょう)または「ブヨ刺症」という。この虫刺症は、高原や山地の牧場などのアウトドアで患するケースが多く、その原因となる虫は、谷村虫に関しては、日本にはオオブユ・ウマブユ・アシマダラブユなどがいる。普通、刺された時に刺し口に出血が見られ、赤く強く腫れることが多く、リンパ管炎やリンパ節炎を併発することもある。



(「平松皮膚科医院ホームページ」から引用)

#### 参考文献・資料

都留文科大学新入生歓迎委員会、2004、「新入生歓迎パンフレット」

「平松皮膚科医院ホームページ」(<http://www2.tokai.or.jp/hiramat/hifuk/buyosasi.htm>, 2004年7月28日)